



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
(0577) 32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

家庭の中の小さなお寺

堀尾 雅紀



〔略歴〕一九五九年高山市生まれ
(尚)仏壇工芸ほりお代表取締役会長。
明治四十二年より続く三代目。
一九八二年名古屋の仏壇店で修業
後に家業を継ぐ。高山二組願生寺
門徒。

先日、高山別院に常設されている中村久子展を拝観しました。手記の一説に目がとまります。「ほとけのめぐみ 親の恩(略)けふも元氣にはたらかん いざ御仏壇にひざまづき 感謝の念仏に心はいさむ」。また、「あるあるある」という詩の中で、「短くてもある手足に感謝、支えてくれる人に感謝」とありました。両親が健在である私は、親の恩を日々感じているのだろうか。もし他界すれば手を合わせると思います、失わないと気がつかないのでしょうか。今の現状が当たり前だと思っている自分に気がされました。

われることがあります。もし先祖様がいなかったら今の自分は存在しないわけです。亡き人と、仏様とを混同されている気がしますが、バトンタッチされてきた命への感謝の心が、仏様を敬っていくことに通じることだと思えます。そして、仏様に向き合うことで、生きる力や知恵を頂けると聞いています。

先祖様を供養するというイメージが強いお仏壇ですが、お仏壇は本来、ご本尊つまり「仏様」を安置する場所です。ある日ご来店されたご住職が弊社のお仏壇を見直しながら、「沢山あるけど全て『壇』ですね」とおっしゃいました。どれも仏様が入っていないからです。お仏壇の「仏」は仏様の意味です。そしてお仏壇は家庭

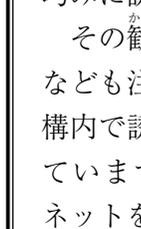
壇と同時に仏様が遷座するからですが、この違いは他の製品には無いことだと思います。それは仏壇や仏像という目に見えるものだけではなく、見えない大切な力が働いているからだと思います。だからお仏壇を造る側も表面だけではなく、職人一人ひとりが確かな技術と想いを込めて仕上げていることが重要だと考えています。最近感じたことですが、お経は誰の為にあるのかとふと気になりました。亡き人の為にあるのではなく、ある時は苦しみや悲しみを乗り越えて生きていかなければならない自分たちの為にあり、道標ではないかと思えます。親友の住職から聞いたことを思い出します。「供養とは『人』として『共』に『養』われること、一方通行ではなく、供養しているつもりが同時に自分も供養されているのです」と。その時、仏教の大切さや魅力が分かりかけました。その手助け、その手段としての「家庭の中のお寺」であるお仏壇の役割が見えてきました。と同時に重要な仕事に携わっていると感じました。一年半前に、その親友の住職を亡くしました。お葬式はお別れの場だと思いましたが、たくさん

き方を見た時、「さようなら」とは言えませんでした。彼は、生まれるのも縁、出会いも縁、死ぬのも縁と最後の言葉を遺しました。そうか、この縁はずっと消えないのだ、この縁を大切にしよう。私にとってはお別れの葬儀ではなかったのだと気が付かされました。そのご縁に感謝し本来ならお寺へ出向いてお参りするべきですが、今は我が家の「小さなお寺」で手を合わせています。親友として、仏壇屋として、彼が大切にしていた仏教の大切さや魅力、少しでも伝えるお手伝いをしていきたいと思えます。

「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えることを称念仏といいますが、「聞く」という意味があるとおっしゃっています。蓮如上人も南無阿弥陀仏の六字のいわれを聞くことが大切だといわれています。阿弥陀さまはすべてのものを救うと誓われ、「あなたを必ず救う」「阿弥陀仏に南無せよ」と呼びかけています。私の口から出る南無阿弥陀仏という声を、阿弥陀さまから願われ呼びかけられている声として聞くということでしょう。そしてその呼びかけに応答して「阿弥陀さまにおまかせします」

という念仏が私の声になるのです。また、私たちは身近なところでは祖父母、両親のお念仏申す姿を見て、南無阿弥陀仏の声を聞いてお念仏を知らされたのでしょうか。私の口から出るお念仏の声は、阿弥陀さまが常に呼びかけてくださり、お釈迦さまや親鸞聖人、無数の方々の声を通してこの私にまで届いてきた声であると言えます。曾我量深という先生は「仏さまはどこにおられますか」の問いに対して、「南無阿弥陀仏と念じ称える人の直前においでになります」と答えられました。私の声の中に阿弥陀さまはいつも一緒にいてくださいます。そして、そのお念仏の声を聞いた周りの方にも声を通して阿弥陀さまのお心が伝わっていくのでしょうか。ぜひ南無阿弥陀仏と声に出してお念仏を申してください。

あなたに狙われている
大学などの新入生がいるご家庭へ
オウム真理教の事件から約20年。カルト宗教は収束した問題ではありません。今も様々な勧誘方法を駆使して、入信した信者に全てを委ねさせ、その人の自由な思考や判断を奪い支配しようとしています。その結果、家庭生活が破壊され、社会的立場が失われ経済的にも追いつめられるという事象が起こっています。親元を離れて新しい学生生活が始まったこの時期、家やこれまでの友だちとも別れて一人不安も多い時でもあります。そんな時カルトは、とても優しく親しげに声をかけて友人関係を作りながら、言葉巧みに誘ってきます。その勧誘については、大学なども注意を呼びかけるので構内で誘うことは少なくなっています。現在はインターネットを介して新入生歓迎



カルト問題の詳細についてはこちら



問 お念仏を声に出す人出さんいけるけど、ごちがいんかな？

答 「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えることを称念仏といいますが、「聞く」という意味があるとおっしゃっています。蓮如上人も南無阿弥陀仏の六字のいわれを聞くことが大切だといわれています。阿弥陀さまはすべてのものを救うと誓われ、「あなたを必ず救う」「阿弥陀仏に南無せよ」と呼びかけています。私の口から出る南無阿弥陀仏という声を、阿弥陀さまから願われ呼びかけられている声として聞くということでしょう。そしてその呼びかけに応答して「阿弥陀さまにおまかせします」

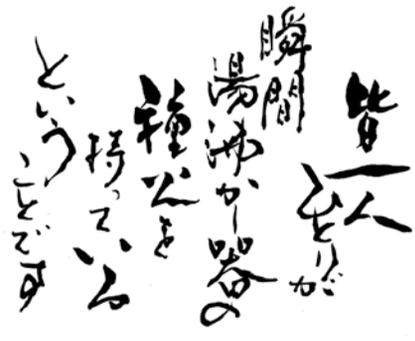
☎テレホン法話(0577)34(23)13 ☎5月21日〜31日…三島大尊氏「真蓮寺」 ☎6月1日〜10日…杉野美和氏「照蓮寺」 ☎6月11日〜20日…帰雲真智氏「還來寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

家庭で読もう

私を照らす

ひかりの言葉 ⑮

酒井 義一



種火、持っています

今の生活では、見かけることが少ない瞬間湯沸かし器。親鸞さまの教えに生きる念仏者・樸暁氏は、この瞬間湯沸かし器の種火のようなものを、人は皆誰もが内に抱え持っていると言っています。

瞬間湯沸かし器の種火は、小さく静かなものです。普段は火がそこにあることすら意識しません。ところが、いったんスイッチが入ると、瞬時にポツと火がつき、熱いお湯があふれ出します。

同じように人が内に抱く種火も、普段は小さく静かなもの。ところが、都合の悪いことやカチンとくる言葉などに出会ってしまふと、瞬時にポツと怒りの炎が燃え、熱湯のような心や言葉や態度があふれ出します。そして他者に向かっています。そのような種火を一人ひとりが抱えながら今を生きている、というのです。

あまり大きな声では言えません

が、実は私も種火を持っています。普段はまったく意識もしていません。種火があることすら忘れていきます。ところが、思いもかけない出来事や、許容範囲を超えてしまうことに出会うと、許せないという思いと共に、熱湯のようなものが、わが身からあふれ出てきます。

怒りの心は、一概に否定されるべきものではないのかもしれない。誤った現実に対して悲しみと怒りの心を持って対応していくことも、時には大切なことです。しかし、その線引きが大変難しいのも事実です。

問題は、私こそが正しい、相手は間違っていると思いつくとき、種火は暴発するというのではないうのでしょうか。自分の側のみに正しさとか正義をつけてしまうと、人は悪や邪を外に見て、正しさの名のもとに過ちを犯していくのではないのでしょうか。

怒りで我を忘れるという言葉がありますが、我を忘れ、コントロール不能な怒りが我を支配し、人間関係にヒビが入ることを繰り返しているのが私たち人間なのかもしれません。

国家にも種火が

そのような種火は国家にもあります。緊迫を増す朝鮮半島情勢にも種火が見え隠れしています。

アメリカのトランプ政権は、近海に原子力空母を配備し、北朝鮮の動きをけん制し、武力行使をちらつかせています。北朝鮮の金正恩体制は、ミサイルの発射実験や核実験を繰り返し、過激な発言で

相手を挑発しています。

どちらにも種火はしっかりと燃え続けています。どちらが正しいのか、どちらが強いのかというこぶしを振り上げ、種火が暴発することを、私は深く危惧します。相手を力でねじ伏せることは過ちです。武力で平和は築けないのです。そのことを肝に銘じるべきです。

深く広い世界を

このような状況の中で、以前に法座でお聞きした言葉を思い起こしています。

高さと強さを競いあつて生きているがゆえに、もっと深くて広い世界を願わずにはおられない。(加賀田栄香)

まさに個人や国家そのものが、強さと高さと正しさを競いあい、主張しあっているのが、この世の現実です。しかし、そのようなことを繰り返しているからこそ、人間はもっと深くて広い世界を願わずにはおられない存在でもあるのでしよう。

私を照らす教え

仏さまの教えは、普段は見えない私たちの、その種火を持つすがたを照らし出す教えです。そして種火を持つわが身とわが世のすがたを照らしつつ、そのことを悲しむ心や傷む心を大切に育ててくださる教えです。

あなたには自分の種火が見えていますか。 次回は藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ」です。

婦人研修会参加者募集

日時 6月25日(日) 午前9時半～午後3時半

会場 高山別院 (受付午前9時)

講師 藤原 千佳子氏 (金沢教区浄秀寺)

講題 苦悩と大悲

会費 1,500円 ※昼食にお弁当を用意しております。

※申し込みはお手次のお寺まで(6月13日締切)

吉城組真宗公開講座

日時 6月4日(土) 午後1時半

会場 西念寺 (国府町広瀬町1016)

講師 四衛 亮氏 (総和町不遠寺)

益田組真宗公開講座

日時 6月15日(木) 午後7時

会場 JA葬祭センター萩原 鈴木 君代氏 (真宗大谷派企画調整局次長)

講師 天白 真央氏 (岡崎教区浄妙寺)

公開学習会(第二回)

日時 5月23日(火) 午後7時半

会場 高山別院御坊会館 海 法龍氏 (東京教区長願寺)

講師 歎異抄第十一章 本願の名号

聴講料 500円 主催 高山二組若声会

佐奈姫忌法要

佐奈姫(1633年~1667年)は、東本願寺第十三代宣如上人の娘で、照蓮寺宣心にわずか9歳で嫁ぎ、35歳の短い生涯を終えました。その墓前で法要を営み、聞法の座をもちます。



日時：6月26日(月)午後1時30分から 会場：佐奈姫墓所・松本公民館(高山市松本町) 法話：出雲路善公 輪番

※別院から送迎があります。現地には駐車場がありませんので、参拝される方は午後1時までに別院事務所に集合ください。

飛驒御坊御遠忌七五〇

2019年(平成31年)5月10日(金)~12日(日)

児童夏のつどい in 長圓寺 7月25日(火)~26日(水)開催! 川遊び・ハイキングなどいろいろなイベントが盛りだくさん。飛驒地域のともだちとたのしい夏をすごしてみませんか? 会場 長圓寺(高山市朝日町) 参加費 3,500円(食費・保険等含む) 対象 小学校3~6年生 締切 7月3日(月) ※お手次のお寺もしくは高山教務所にお申し込みください。 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

子ども奉仕団 参加者募集 8月8日(火)~10日(木) 京都の東本願寺に全国から子どもたちが大集合! みんなでおつとめしたり、おそうじをしたり、お話を聞いたり、遊んだりしながら一緒に生活します。 会場 東本願寺、詰所など(京都市) 参加費 10,000円(食費・保険等含む) 対象 小学校4~6年生 締切 7月7日(金) ※お手次のお寺もしくは高山教務所にお申し込みください。 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。